

1 食肉の流通

(1) と畜場の状況

ア 平成22年の全国のと畜場数は198場で、前年に比べ1場減少した。

と畜場の種類別と畜場数及び構成割合をみると、食肉卸売市場併設と畜場が27場で13.6%、食肉センターが73場で36.9%、その他が98場で49.5%となっている。(表1)

表1 種類別と畜場数の推移(全国)

区分	単位	計	食肉卸売市場併設と畜場	食肉センター	その他
と畜場数					
平成20年	場	199	27	73	99
21	〃	199	27	76	96
22	〃	198	27	73	98
構成比					
平成20年	%	100.0	13.6	36.7	49.7
21	〃	100.0	13.6	38.2	48.2
22	〃	100.0	13.6	36.9	49.5

イ 豚及び成牛のと畜頭数規模別と畜場数及びと畜頭数をみると、豚を処理したと畜場数は169場、と畜頭数は1,680万7千頭であった。これをと畜頭数規模別にみると、10万頭以上のと畜場数は70場、と畜頭数は1,382万2千頭でそれぞれ41.4%、82.2%を占めている。

また、成牛を処理したと畜場数は151場、と畜頭数は120万9千頭であった。これをと畜頭数規模別にみると、1万頭以上のと畜場数は44場、と畜頭数は82万2千頭でそれぞれ29.1%、68.0%を占めている。(表2)

表2 と畜頭数規模別と畜場数及びと畜頭数の推移(全国)

	単位	豚					成牛				
		計	2万頭未満	2~5	5~10	10万頭以上	計	1,000頭未満	1,000~5,000	5,000~1万	1万頭以上
と畜場数											
平成20年	場	170	46	31	27	66	150	29	36	40	45
21	〃	172	49	29	25	69	151	31	34	41	45
22	〃	169	48	26	25	70	151	31	36	40	44
構成比											
平成20年	%	100.0	27.1	18.2	15.9	38.8	100.0	19.3	24.0	26.7	30.0
21	〃	100.0	28.5	16.9	14.5	40.1	100.0	20.5	22.5	27.2	29.8
22	〃	100.0	28.4	15.4	14.8	41.4	100.0	20.5	23.8	26.5	29.1
と畜頭数											
平成20年	千頭	16,192	189	1,087	2,000	12,916	1,227	8	103	288	828
21	〃	16,966	190	1,021	1,843	13,911	1,217	9	95	288	826
22	〃	16,807	202	938	1,845	13,822	1,209	7	100	281	822
構成比											
平成20年	%	100.0	1.2	6.7	12.4	79.8	100.0	0.6	8.4	23.5	67.5
21	〃	100.0	1.1	6.0	10.9	82.0	100.0	0.7	7.8	23.7	67.9
22	〃	100.0	1.2	5.6	11.0	82.2	100.0	0.6	8.2	23.2	68.0

注：1 当該畜種の入場のあったと畜場のみを集計値である。

2 構成比は、原数（Ⅱ統計表における表章単位）より算出している（以下各表において同じ。）。

3 割合の計が100%にならないのは、四捨五入によるものである（以下各表において同じ。）。

(2) 肉豚の概要

ア 豚のと畜状況

豚のと畜頭数は1,680万7千頭で、前年に比べ0.9%減少した。(図1、表3)

図1 豚と畜頭数の推移(全国)

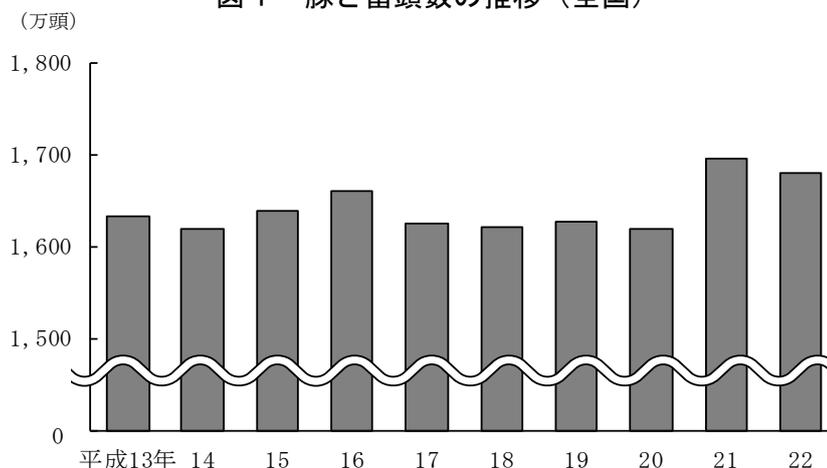


表3 豚と畜頭数の推移(全国)

区分	単位	平成13年	14	15	16	17	18	19	20	21	22
実数	千頭	16,329	16,183	16,396	16,596	16,243	16,210	16,268	16,192	16,966	16,807
対前年比	%	97.7	99.1	101.3	101.2	97.9	99.8	100.4	99.5	104.8	99.1

注：対前年比は、原数（Ⅱ統計表における表章単位）より算出している（以下各表において同じ）。

イ 食肉卸売市場における豚肉の状況

(7) 取引状況

食肉卸売市場(中央卸売市場10、指定市場18)における豚肉の取引成立頭数は219万1千頭で、前年に比べ0.9%減少した。市場別では、中央卸売市場が93万9千頭、指定市場が125万2千頭で前年に比べそれぞれ1.1%、0.7%減少した。

全国のと畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の割合は13.0%で、前年並みであった。(表4・5)

表4 食肉卸売市場の豚肉の取引成立頭数の推移

区分	単位	計	中央卸売市場	指定市場
取引成立頭数				
平成20年	千頭	2,142	903	1,238
21	"	2,210	950	1,260
22	"	2,191	939	1,252
対前年比				
平成20年	%	98.1	98.4	97.9
21	"	103.2	105.2	101.8
22	"	99.1	98.9	99.3

表5 豚肉の全国と畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の推移

区 分	全国と畜頭数		割 合
	千頭	食肉卸売市場 千頭	
取引成立頭数			%
平成20年	16,192	2,142	13.2
21	16,966	2,210	13.0
22	16,807	2,191	13.0

(イ) 卸売価格の動向（1kg当たり平均価格）

食肉中央卸売市場における豚肉の規格別卸売価格は、「極上」が651円、「上」が456円、「中」が423円、「並」が381円、「等外」が231円で、「極上」、「上」、「中」、「並」及び「等外」全て前年に比べそれぞれ3.7%、6.3%、6.0%、7.3%、3.1%上昇した。（図2、表6）

図2 豚肉の規格別卸売価格の推移
（食肉中央卸売市場）

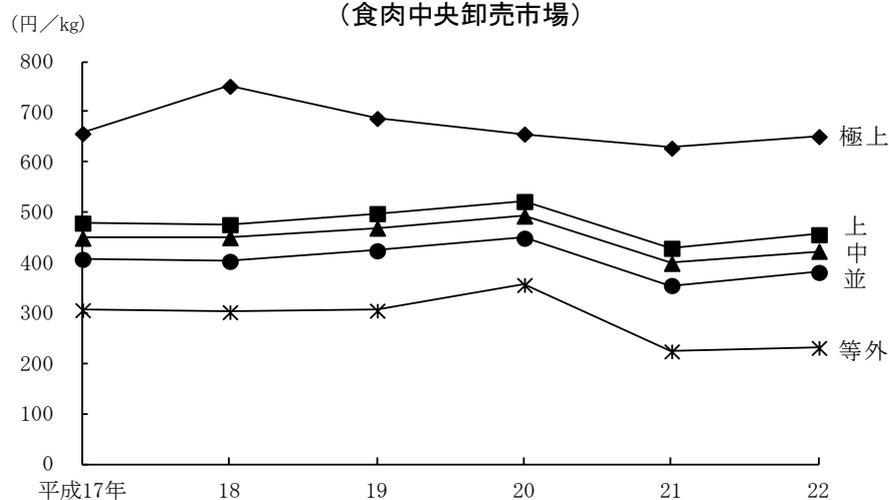


表6 豚肉の規格別卸売価格（食肉中央卸売市場）

区 分	単位	極上	上	中	並	等外
卸売価格						
平成20年	円/kg	656	522	493	449	356
21	〃	628	429	399	355	224
22	〃	651	456	423	381	231
対前年比						
平成20年	%	95.5	104.8	105.1	105.9	116.7
21	〃	95.7	82.2	80.9	79.1	62.9
22	〃	103.7	106.3	106.0	107.3	103.1

(3) 肉牛の概要

ア 成牛のと畜状況

成牛のと畜頭数は120万9千頭で、前年に比べ0.6%減少した。

このうち、和牛は51万頭、乳牛は40万5千頭で、前年に比べそれぞれ3.1%、0.4%増加したが、交雑牛が27万6千頭、その他の牛が1万8千頭で、前年に比べそれぞれ7.8%、7.1%減少した。

成牛の種類別と畜頭数割合をみると、和牛は42.2%、乳牛は33.5%で、前年に比べそれぞれ1.5ポイント、0.4ポイント上昇したが、交雑牛が22.8%、その他の牛が1.5%で、前年に比べそれぞれ1.8ポイント、0.1ポイント低下した。（図3、表7）

図3 成牛の種類別と畜頭数の推移（全国）

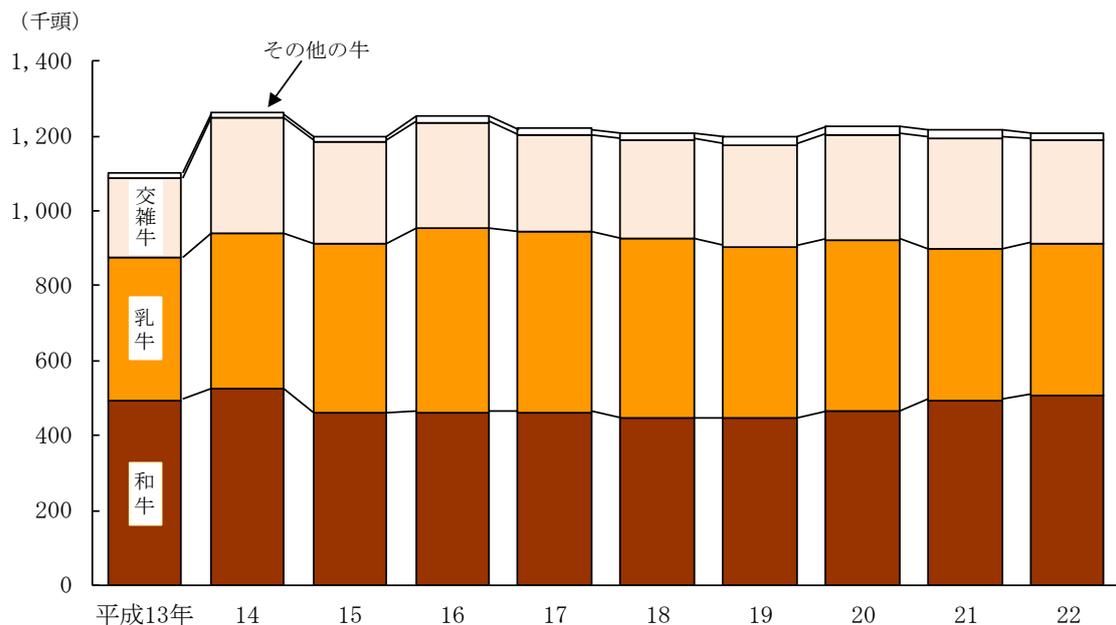


表7 成牛の種類別と畜頭数の推移（全国）

区分	単位	平成13年	14	15	16	17	18	19	20	21	22
と畜頭数											
成牛計	千頭	1,103	1,263	1,202	1,256	1,221	1,209	1,199	1,227	1,217	1,209
和牛	〃	496	527	461	464	463	449	448	467	495	510
乳牛	〃	382	413	452	492	483	478	458	458	403	405
交雑牛	〃	213	309	274	281	256	262	271	280	299	276
其他の牛	〃	13	14	14	18	19	19	22	22	20	18
対前年比											
成牛計	%	85.1	114.4	95.2	104.5	97.2	99.0	99.2	102.3	99.2	99.4
和牛	〃	85.9	106.3	87.5	100.6	99.7	97.1	99.6	104.3	105.9	103.1
乳牛	〃	79.1	108.0	109.4	108.9	98.1	99.0	95.8	99.9	88.1	100.4
交雑牛	〃	95.9	145.5	88.7	102.4	91.1	102.4	103.3	103.3	107.0	92.2
其他の牛	〃	86.2	106.1	104.2	129.1	102.5	102.4	114.6	101.0	88.9	92.9
構成比											
成牛計	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
和牛	〃	44.9	41.7	38.4	37.0	37.9	37.2	37.3	38.1	40.7	42.2
乳牛	〃	34.6	32.7	37.6	39.2	39.6	39.6	38.2	37.3	33.1	33.5
交雑牛	〃	19.3	24.5	22.8	22.4	21.0	21.7	22.6	22.8	24.6	22.8
其他の牛	〃	1.2	1.1	1.2	1.5	1.5	1.6	1.8	1.8	1.6	1.5

イ 食肉卸売市場における牛肉の状況

(7) 取引状況

食肉卸売市場（中央卸売市場10、指定市場18）における成牛の取引成立頭数は42万1千頭で、前年に比べ0.3%減少した。市場別では、中央卸売市場は30万8千頭で前年に比べ1.1%減少したが、指定市場が11万4千頭で前年に比べ2.2%増加した。

畜種別では、和牛は20万9千頭、乳牛は7万2千頭で、前年に比べそれぞれ5.7%、2.6%増加したが、交雑牛が13万8千頭、その他の牛が3千頭で、前年に比べそれぞれ8.8%、26.3%減少した。

全国のと畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の割合は34.9%で、前年に比べ0.2ポイント上昇した。（表8・9）

表8 食肉卸売市場の成牛の取引成立頭数の推移

区 分	単 位	計	市 場 別		畜 種 別			
			中央卸売市場	指定市場	和 牛	乳 牛	交雑牛	その他の牛
取引成立頭数								
平成20年	千頭	425	315	110	191	89	139	5
21	"	423	311	111	197	70	151	4
22	"	421	308	114	209	72	138	3
対前年比								
平成20年	%	101.3	101.1	101.9	101.3	100.1	101.9	104.6
21	"	99.5	98.9	101.5	103.5	78.7	108.6	72.4
22	"	99.7	98.9	102.2	105.7	102.6	91.2	73.7

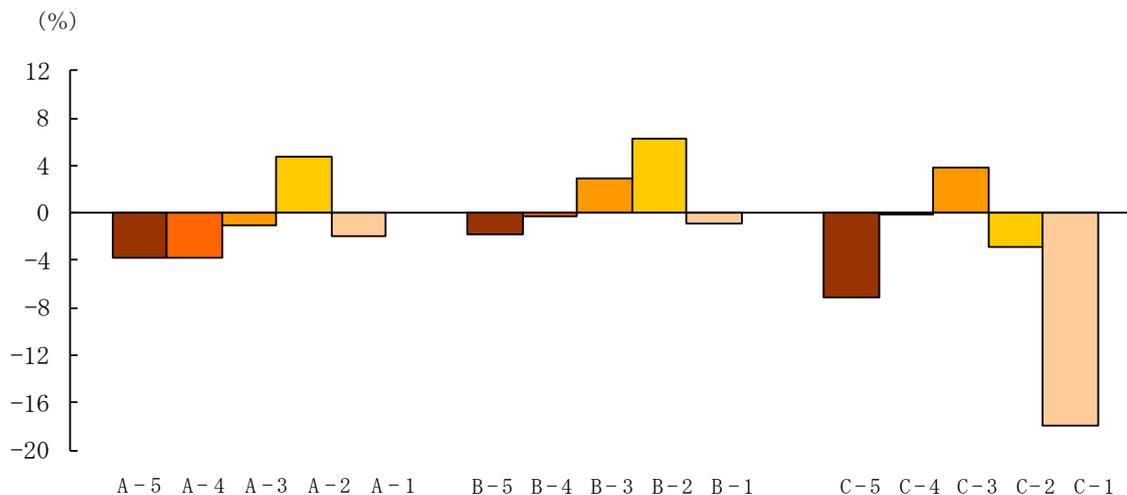
表9 成牛の全国と畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の推移

年 次	全国と畜頭数		割 合
	千頭	食肉卸売市場 千頭	
平成20年	1,227	425	34.6
21	1,217	423	34.7
22	1,209	421	34.9

(イ) 卸売価格の動向

食肉卸売市場における牛肉の規格別卸売価格を対前年騰落率で見ると、「A-2」、「B-3」、「B-2」及び「C-3」規格が前年を上回ったものの、その他の規格は前年を下回った。(図4)

図4 成牛の規格別取引価格の対前年騰落率



2 鶏卵の流通

(1) 鶏卵の生産量

平成22年の鶏卵生産量は251万5千tで、前年に比べ0.3%増加した。

これを都道府県別割合で見ると、茨城県と千葉県が7.5%と最も高く、次いで鹿児島県が6.7%、岡山県が4.9%、広島県が4.8%となっている。(図5、表10)

図5 鶏卵生産量の推移(全国)

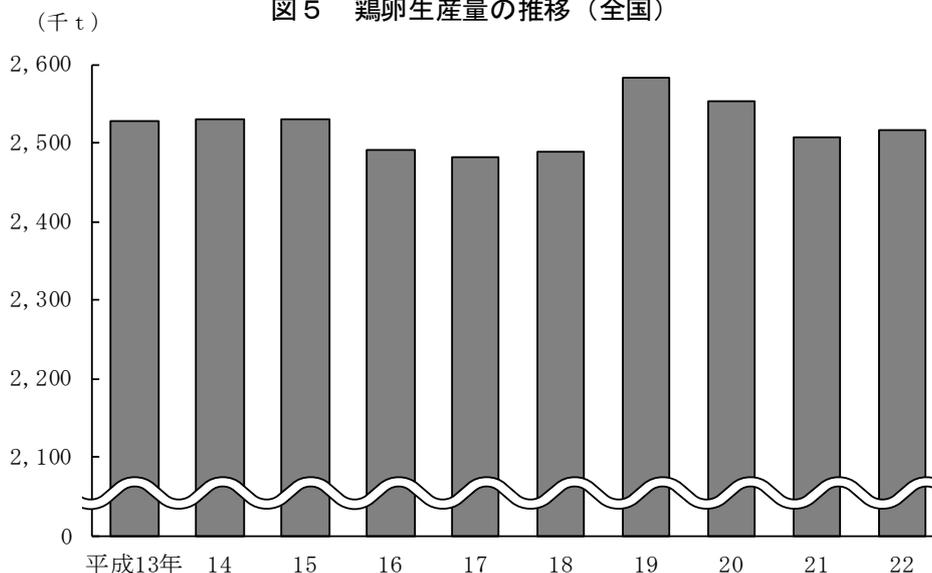


表10 鶏卵生産量（全国及び上位10都道府県）

区 分	生 産 量			対 前 年 比			平成22年 構 成 比
	平成20年	21	22	平成20年	21	22	
	千t	千t	千t	%	%	%	%
全 国	2,554	2,508	2,515	98.8	98.2	100.3	100.0
茨 城	187	186	189	102.8	99.6	101.9	7.5
千 葉	186	183	189	100.7	98.0	103.4	7.5
鹿 児 島	164	160	167	98.6	97.4	104.5	6.7
岡 山	118	124	123	103.6	105.2	98.8	4.9
広 島	118	119	120	101.3	101.0	101.3	4.8
愛 知	136	116	107	99.4	84.8	92.3	4.2
北 海 道	108	108	101	97.5	99.3	94.2	4.0
新 潟	98	98	98	98.4	99.7	100.0	3.9
青 森	88	88	88	97.3	100.7	100.0	3.5
群 馬	80	78	83	100.2	98.4	105.5	3.3
そ の 他	1,271	1,248	1,250	97.6	98.3	100.1	49.7

(2) 鶏卵の出荷状況

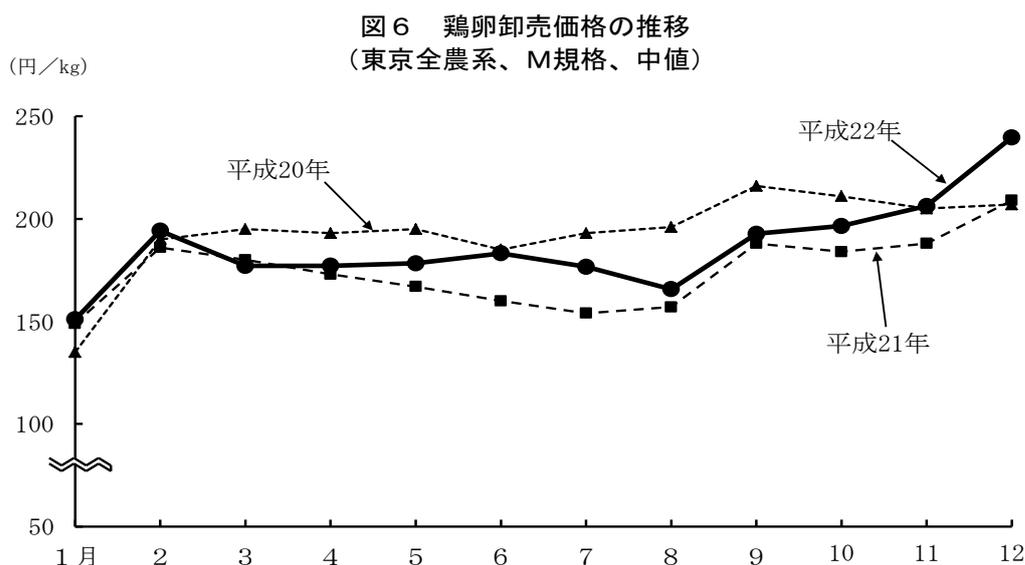
鶏卵出荷量は244万2千tで、前年に比べ0.5%増加した。

これを全国農業地域別割合で見ると、千葉県、茨城県を中心とする関東・東山が最も高く、出荷量の24.7%を占めている。次いで、鹿児島県、福岡県を中心とする九州が15.1%となっている。（表11）

表11 鶏卵の全国農業地域別出荷量

区 分	実 数			対 前 年 比			平成22年 構 成 比
	平成20年	21	22	平成20年	21	22	
	千t	千t	千t	%	%	%	%
全 国	2,476	2,431	2,442	98.9	98.2	100.5	100.0
北 海 道	106	105	99	97.4	99.4	93.8	4.0
東 北	346	348	351	99.6	100.3	101.0	14.4
北 陸	145	142	141	97.9	98.0	99.0	5.8
関 東・東 山	602	592	604	99.0	98.2	102.2	24.7
東 海	335	307	293	97.6	91.6	95.6	12.0
近 畿	131	133	131	100.3	101.4	98.2	5.4
中 国	298	299	301	101.4	100.6	100.4	12.3
四 国	129	126	131	99.2	97.8	103.6	5.4
九 州	363	358	369	97.7	98.6	103.0	15.1
沖 縄	21	21	23	97.2	100.1	112.0	1.0

(参考) 卸売価格 (鶏卵市況情報)



3 食鳥の流通

(1) 食鳥の処理量

全国の処理羽数は肉用若鶏が6億3,379万9千羽、廃鶏が9,108万1千羽、その他の肉用鶏が784万9千羽で、前年に比べそれぞれ0.1%、3.3%、13.4%減少した。

全国の処理重量は肉用若鶏が183万5,091 tで前年に比べ0.5%増加したが、廃鶏が15万8,665 t、その他の肉用鶏が2万4,582 tで、前年に比べそれぞれ4.0%、13.7%減少した。(表12)

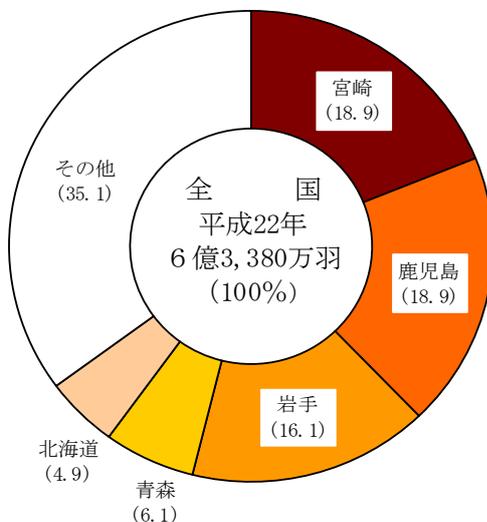
表12 全国の食鳥処理量 (全国) (平成22年)

区 分	処 理 量 (生 体)		対 前 年 比	
	羽 数	重 量	羽 数	重 量
	千羽	t	%	%
肉 用 若 鶏	633,799	1,835,091	99.9	100.5
廃 鶏	91,081	158,665	96.7	96.0
その他の肉用鶏(地鶏等)	7,849	24,582	86.6	86.3

ア 肉用若鶏

都道府県別の出荷羽数割合をみると、宮崎県及び鹿児島県がそれぞれ18.9%と最も高く、次いで岩手県が16.1%となっており、上位3県で出荷羽数の約5割を占めている。(図7)

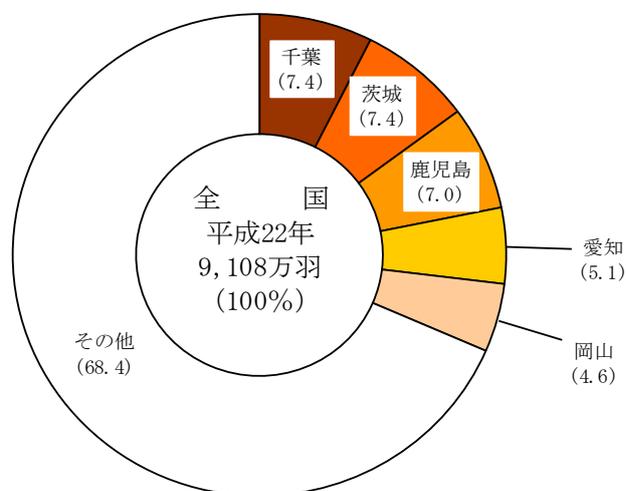
図7 肉用若鶏の都道府県別出荷羽数割合



イ 廃鶏

都道府県別の出荷羽数割合をみると、千葉県及び茨城県が7.4%と最も高く、次いで鹿児島県が7.0%、愛知県が5.1%、岡山県が4.6%となっている。(図8)

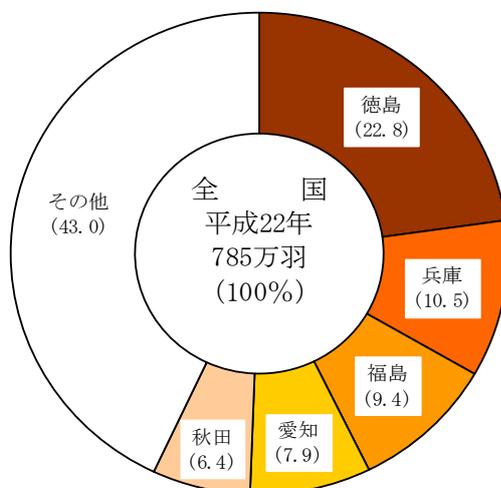
図8 廃鶏の都道府県別出荷羽数割合



ウ その他の肉用鶏（ふ化後3か月齢以上）

都道府県別の出荷羽数割合をみると、徳島県が22.8%と最も高く、次いで兵庫県が10.5%、福島県が9.4%、愛知県が7.9%、秋田県が6.4%となっており、上位4県で出荷羽数の約5割を占めている。（図9）

図9 その他の肉用鶏の都道府県別出荷羽数割合



(2) 食鳥処理場数

食鳥を処理した全国の食鳥処理場数は520場で、1処理場当たり処理重量は3,881 t となっている。（表13）

表13 食鳥処理場数及び1処理場当たり処理重量（全国）

区分	単位	1) 食鳥処理場	食鳥の種類			
			肉用若鶏	廃鶏	その他の肉用鶏	2) その他の食鳥
処理場数						
平成20年	場	611	177	298	187	87
21	〃	534	172	285	191	...
22	〃	520	165	274	195	...
対前年比						
平成20年	%	97.3	100.0	97.4	102.2	96.7
21	〃	87.4	97.2	95.6	102.1	...
22	〃	97.4	95.9	96.1	102.1	...
1処理場当たり処理重量						
平成20年	t	3,249	10,098	548	158	59
21	〃	3,783	10,619	580	149	...
22	〃	3,881	11,122	579	126	...
対前年比						
平成20年	%	104.5	101.9	101.5	109.7	93.7
21	〃	116.4	105.2	105.8	94.3	...
22	〃	102.6	104.7	99.8	84.6	...

注： 1)は、食鳥を処理した実処理場数であり、1処理場で複数の処理を行っている場合があることから、食鳥の種類の内計とは一致しない。また、平成20年には、「その他の食鳥」の処理場数を含む。

2)は、平成21年調査から調査対象外とした。

(参考) 卸売価格 (食鳥市況情報)

